

# 2021年度（令和3年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（中学国語）

学校名        逗子市立逗子中学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p><b>結果の概要</b></p>	<p>○概ね全国、県の平均を上回り良好な結果。 ○無解答も少なく、解答しようとする努力が見える。 ○指導の領域で見ると、全国・県の正答率が比較的低い「読むこと」では優位に高い結果となった。 ○評価の観点、問題形式の項目別でも全てに於いて全国・県とほぼ同等で、下回るものはなかった。</p>
<p><b>話すこと 聞くこと</b></p>	<p>○概ね良好な結果である。 ●話し合いの流れを踏まえ、次の話者がどのように発言することが良いかを理由を添えて記述する問題では、具体的な理由を書かなかった生徒が3割ほどおり、全ての条件を押さえて記述することの指導が必要である。</p>
<p><b>書くこと</b></p>	<p>●問2は「書くこと」の出題である。意見文を読み取り、主張を効果的に伝えるための書き直しの意図を説明する問題では、正答にたどり着いた生徒は2割ほどで、全国・県と同様に低い結果となった。 ○しかし、段落構成の工夫について、自分の考えを記述する問題では、全国・県と同等の割合で正答している。無解答の人数も少ない。</p>
<p><b>読むこと</b></p>	<p>○物語文の読み取りでは、漱石の「吾輩は猫である」が題材であり、現在ではあまり使われない表現を読み取ることはなかなか難しかったようである。しかし、その中でも4問中1問は全国・県よりも優位に高い正答率であった。 ○「吾輩」が「黒」を①どのように評価し、②どのような接し方をしているか、③それに対して自分の考えを書くという問いでは、正答率は低いものの、全国・県よりは優位に高い結果となった。①の条件は抜け落ちているが、②③の条件を満たしていたものもほぼ同数おり、複数の条件を押さえて考えをまとめる練習が今後も必要である。</p>
<p><b>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</b></p>	<p>○漢字の読みは日々の学習の積み重ねが生きており、良好な結果である。 ●敬語については使い慣れるための機会が必要かと思われる。</p>
<p><b>生徒質問紙 国語に関する質問 問4 3～5 1</b></p>	<p>○国語が好きな生徒は多く、国語の勉強を必要だと感じている生徒も多い。授業が分かるという回答も多く、学習した内容を実際に使ってみようとしている割合も高い。授業での目的に応じて自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書く等の取り組みが、国語の力を伸ばしていると考えられる。</p>

# 2021年度（令和3年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（中学数学）

学校名        逗子市立逗子中学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p><b>結果の概要</b></p>	<p>○概ね全国、県の平均を上回り良好な結果である。 ○無解答も全国・県よりは少なく、解答しようとする努力が見える。 ○特に「数と式」の領域は全国・県と比較し優位に高い正答率を示している。</p>
<p><b>数と式</b></p>	<p>○5問、全てで全国・県よりも優位に高い正答率であった。繰り返しの取り組みが結果として表れた。 ●自然数を6つずつに区切った表で四角く4つの数を囲んだ時の4つの数の和について説明する問題では、条件に合う表現をできなかった生徒が多く、指導の余地がある。（問題の読み取りの課題とも考えられる。）</p>
<p><b>図形</b></p>	<p>○4問中3問が全国よりも優位に高い正答率となった。 ○扇型の弧の長さや、錯角が等しくなるための2直線の条件等、基本的なことは十分に理解していることが読み取れる結果となった。 ●三角定規を用いてできる四角形について、いつでも成り立つ性質を見いだして数学的に表現する問題では、全国・県の正答率も3割程度と低調であるが、本校生徒の正答率も低調である。問題文が長く、十分読み取れなかったとも考えられる。</p>
<p><b>関数</b></p>	<p>○与えられた表やグラフから必要な情報を読み取ることは十分にできている。 ●関数の意味について答える問いでは、「AはBの関数である」のAとBが逆の解答が多く、確認指導の必要がある。全国・県と比較しても低い正答率であった。 ●グラフを用いて、事象の数学的な解決策を説明する問題では、全国・県と同様に正答率が低く、3割程度であり、無解答も2割近く有り、指導と確認が必要である。</p>
<p><b>資料の活用</b></p>	<p>●単純にヒストグラムの階級の度数を答える問題の正答率が低く、再度の確認指導の必要がある。 ●2つの度数分布のデータの傾向を的確に捉えて数学的に説明する問題では全国・県共に1割程度の正答率であるが、本校も同様に低い正答率であった。自分の言葉で説明するという点で、無解答も多かった。</p>
<p><b>生徒質問紙 数学に関する質問 問5 2～6 0</b></p>	<p>○数学が好きな生徒は多い。授業もわかりやすいと評価している生徒が8割を超えており、授業で学習した内容を普段の生活で活用できないかを考えている生徒も6割を超えている。問題の解き方をノートに書いているとの回答も9割を超えているので、今回、課題となった自分の言葉で説明するような問題にも、これから対応していける力をつけることはできそうである。</p>

## 2021 年度（令和 3 度）全国学力・学習状況調査の結果分析（生徒質問紙）

学校名 逗子市立逗子中学校

特徴的なことや課題と考えられること等

- 規則正しく生活している生徒が多い。ご家庭の協力無くしてはできないことであり、生徒が安定した学校生活をおくれるのもご家庭の力のお陰であると再認識した。
- 自己肯定感も高く、前向きな気持ちで生活している様子が読み取れた。
- 学習したことを活かして、自分の考えをまとめたり、クラスで話し合うことで自分の考えを深めたりということに自分でも良く取り組んでいるとの評価が高い。
- 家庭での学習については、よくしている生徒も多いが、全くしていないとの回答も 2 割近くあったのが気になるところである。
- 読書の時間が短い点と、新聞を読んでいる割合が非常に低いことが気になった。朝の読書の時間を学校としては大切にしていきたい。

## 2021 年度（令和 3 元年度）全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

学校名 逗子市立逗子中学校

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

- ・令和元年度からの学校としての取り組み「教科で身につけた資質・能力の活用を目指した授業」が根付き、生徒達が学び取ったことを元に自分の考えをまとめ、発信することに自信を持って取り組んでいる様子が結果から読み取れた。よって、学校としては引き続き、教科で身につけた資質・能力を活用した教科横断的・総合的な授業づくりを進め、思考力・判断力・表現力の強化につなげていく。
- ・基礎・基本を支える知識・技能の習得についても、ICT 機器活用等で様々な学習方法を選択できるようになったことも踏まえ、生徒一人ひとりが自分に適した方法で学習に取り組めるよう工夫していきたい。
- ・感染症の影響で、地域の教育力の活用については足踏み状況が続いている。また、学校から生徒達が実際に校外に出かけていくこともままならない。しかし、今後も地域とのつながりを大事にし、状況が許される範囲で学校外からの刺激を受けることも大切にし、生徒の更なる資質・能力の向上につなげたい。